

「お絵描き」が結ぶ地域交流と広報

服部 有紀

三峰川総合開発工事事務所 総務課（〒396-0402 長野県伊那市長谷溝口1527）

三峰川総合開発工事事務所では、美和ダムの再開発事業を行っており、現在は国内初となるストックヤード方式による湖内堆砂対策施設の設置工事を行っている。

220mあるストックヤードの壁面を利用し、将来に亘り治水への理解や施設への愛着を持ってもらおうと200人の子供も達に絵を描いてもらう企画を実施。

取り組みを行う中で、職員の一体感、学校の先生方との交流、工事関係者のモチベーションアップ、人と人を近づける話題としての役割など付加価値を生むことになった。

その取り組みと効果を報告。

キーワード：国内初施設、お絵描き、地域交流、広報

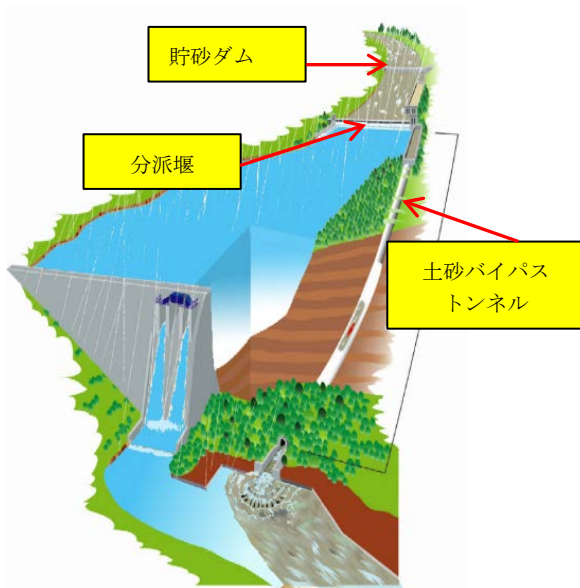


図-1 土砂バイパス施設

1. 美和ダム再開発とは

三峰川総合開発工事事務所が実施している美和ダム再開発事業は、美和ダムの洪水調節機能を強化する伴に長期に亘ってその機能を維持する事を目的とした事業である。これまでに貯水池内の堆砂掘削、図-1に示す、土砂バイパス施設（土砂バイパストンネル、貯砂ダム、分派堰）の設置、試験運用を行ってきているところである。

現在施工中の湖内堆砂対策施設は、ダム運用のため土



図-2 堆砂対策施設完成予想図

砂バイパス施設に迂回できず、ダム湖内に流入し堆砂した土砂を排砂するもので、国内初の施設である。その中で主要な施設となるのが図-2に示すストックヤードと呼ばれる施設で、長さ約220m、幅約40m、高さ5.5mの巨大なプールの様なコンクリート構造物である。ダム湖に貯まった土砂を非洪水期又は洪水のない時期に浚渫してこの施設に移しておき、洪水時に土砂バイパストンネルを使って流すというものである。

事業全体としても先進的な事例となっており、国内外の堆砂問題を抱える関係者の視察も多く、注目されている事業である。



図－３ お絵描き場所

2. なぜ「お絵描き」なのか

日本初の施設をもっとみなさんに知って欲しいと、旬な現場や、事務所HPでの情報発信を行っているところであるが、広報の手段としては一般的であり、現場見学希望者も横ばいとなってきた。そこで地域の方々に、より理解を深め、愛着を持ってもらう方法はないかと議論する中、現在施工中の湖内堆砂対策でストックヤードの設置を行っているので、そこに子ども達に「絵を描いてもらったらどうか」という提案が出された。（図－３）

ストックヤード川側の壁は、高さ約8.5mあり、そのうちの2.5mは工事の進捗により埋戻されるが、それまでの間は、長さ220mのコンクリート壁面をキャンバスに思う存分絵を描いてもらうことができる。仮に1人1mとしても200人以上に参加してもらうことができる。

小学校、中学校の子ども達は珍しい場所へのお絵描きと（図－４）、ダムの見学を行うことで、楽しく、より思い出深い課外学習となり、将来大人になった時にこの

施設の意義を改めて認識したり、愛着を持ってもらえると考えた。また、ダムについての勉強にはまだ早い保育園児たちも、お絵描きは楽しんで描くことができ、ダムに関する思い出づくりができると考え、お絵描きを実施することとした。

マスコミへのアピールとしても、対象者が保育園児から中学生までということ。「国内初施設にお絵描き」という、珍しい取り組みであり話題性が高いと考えた。

3. 事務所の実施体制づくり

200人の子ども達にお絵描きしてもらうには、6～7クラスに参加してもらう必要がある。小中学校や保育園への渉外対応、子ども達の送迎対応、現場施工調整など1つの課では対応できないと予想されたので、初期段階で事務所長を含めた業務分担会議を実施し事務所全体の取り組みとして、次のとおり業務分担を決めた。

表－１ 実施体制づくり

課 名	業 務 分 担
総務課	事務局、渉外 (全体管理、学校勧誘、広報)
工務課	現場調整 (学校勧誘、施工者調整、区画割)
調査課	見学案内 (見学案内、大人数時の補助)

実施段階では、事務局はリーダー（所長）の指揮の下、全体管理を行うことができ、各パート責任者とスムーズな業務調整をすることが可能になった。

結果として4ヶ月にわたり、6校、204人の見学、お絵描きをトラブルなく実施できた。

事務所として取り組んだため、職員、期間業務職員の全員が何らかの形で参加あるいは参画し、平成30年度の「事務所として一体感」を感じられる代表的行事となった。



図－４ 実際に壁面に描かれた絵の一部

4. 学校への働きかけ

前述のとおり200人の子ども達にお絵描きをしてもらうには、6～7クラス、複数の学校の参加が必要となる。地元伊那市長谷地区の小中学校を手始めに、沿川の学校に順次、勧誘をすることとした。長谷小学校だけは子ども見守り隊の活動で交流があったが、それ以外の学校はほぼ飛び込みとなる。

覚悟を決め始めたが、幸いにも地元長谷中学校に伺ったところ、三峰川について学んでいる市内の小学校を紹介いただき3クラスに参加してもらえることとなった。

また、事務所職員が余暇活動で知り合った先生を紹介してもらったり、学校側から通常の現場見学の申し込みも数校あり、その際にお絵描きのお誘いをし、定員を満たすことができた。

学校を訪問し働きかけをしたことで「先生方との交流」をすることができた。更に実際に参加してもらった学校とは数回のやり取りや打ち合わせ、特に3クラス約100人を同時に行った学校とは下見を含め綿密な打ち合わせを複数回行い、交流を深めることができた。

5. 報道への投げ込みと工夫

投げ込みには、「国内初」や「お絵描き」といったキーワードを入れたことと、そのまま記事にできるように概要書を添付、お絵描き場所やスケールがイメージできるよう図面も添付した。保育園の実施時には双方でそれぞれ投げ込むことを申し合わせ、投げ込み資料が複数となることでマスコミの目に触れやすいようにした。また、各回とも取材に応じてもらえそうなマスコミに個別に電話や訪問により取材を依頼した。その結果3回で延べ8社の取材、7回の掲載を得ることができた。（図－5）

さらに、新たに取材を受けた記者と知り合うことができ、マスコミ関係者との交流も広げられた。

6. 現場見学とお絵描きの状況

平成30年の夏は標高800mを超える美和ダム再開
発の現場でも大変暑い気候であった。何よりも子ども達
に事故のないようにと事業説明は短く、お絵描き時間や
時間帯、子どもの監視、水分補給、日陰の設置など先生
方、請負者、事務所が情報を共有しあって対応を行った。

お絵描きにはチョークよりバリエーションのある絵を描いてもらうことができるようクレヨンを使用した。実際の現場見学やお絵描きの状況は図－6、7のとおりである。

1回目となったみらい福祉会の実施時には請負者の協力により高所作業車や建設機械の試乗体験も実施し子ども達と先生方には大変喜んでもらえた。後日福祉会の子ども達が作成した寄せ書きの感謝状を代表の児童から直



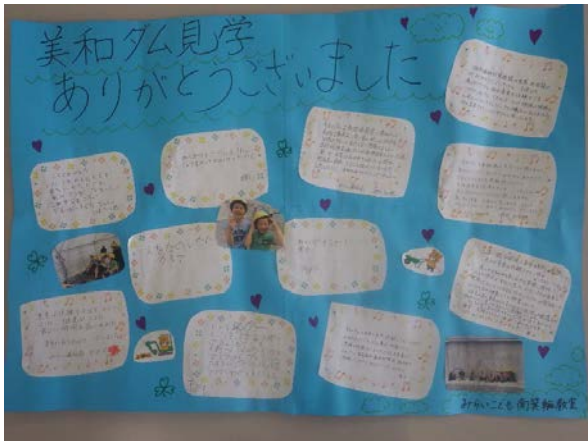
図-6 ダムについて学ぶ子ども達



図-5 お絵描きを伝える新聞記事



図-7 お絵描きをする子ども達



図－８ 子ども達からの感謝状

接授といただくことができた。（図－８）実施者としては大変うれしい出来事だったので早速請負者にも連絡し共有を図った。

毎回、子ども達には大変好評で「楽しかった」「このような場所に描けてラッキーでした」「工事の人たちの大変さがわかった」などの感想をいただいた。

子ども達にはドローンも人気で、撮影には皆さん、空を見上げて楽しそうな笑顔で応えてもらえました。（図－９）

7. 請負者のモチベーション

お絵描き場所であるストックヤードの工事は請負者２社の現場である。事務所の発案に請負者側も工事車両の通行や工事現場の音などで地元、地域のみなさんにご協力をいただいているし、土木工事の重要性や、最新の土木現場の様子を見ていただきたいとご協力いただけることとなった。工事工程の調整、日々動いている現場の中で子ども達の歩行エリアや駐車スペース、説明場所の確



図－９ ドローンを見上げる園児達



図－１０ 各種会合で紹介

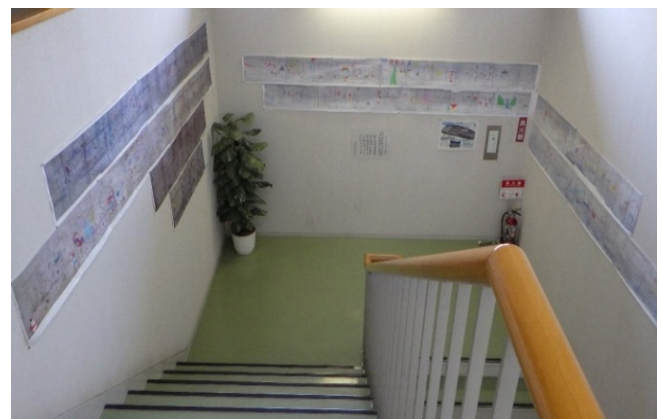
保、ドローンの撮影などご協力をいただいた。

請負者側では、「コンクリートの現場に華が咲いた」「子ども達が来てくれてにぎやかさがあつた」「将来何人かが土木に興味を持ってくれるとうれしい」「各種報告会や社内報等にもこの取組みを活用させてもらう」「何より子ども達が喜んでいる姿を見てうれしかったし頑張ろうという気持ちになった」など、「モチベーションがアップ」しましたとの報告をいただいた。

8. 地元関係者等への話題提供

お絵描きは、参加した子ども達が大変喜んでくれたこと、マスコミにも数多く取り上げてもらったこと、話が簡単でわかりやすいことから、地元関係者、協力団体、議員や行政機関、業界団体等各種会合において紹介させていただいた。（図－１０）また、緩やかで場を和ませることから事務所職員と相手方の垣根を下げる話題としても使用できたと感じているところです。

その他、事務所の展示スペースには縮小版を掲示。（図－１１）HP、ツイッター、内外視察団への説明資料、本局幹部会合資料にも入れてもらうなど、様々な



図－１１ 事務所での展示状況

チャンネルで情報発信を行うことができた。

9. まとめ

工事現場へのお絵描きをとおして、子ども達に楽しんで絵を描いてもらい、将来大人になった時に施設の重要性や愛着を感じてもらえればという思いと、更には新聞などに掲載されて広報効果があるというねらいで始めた取り組みであるが、事務所職員の一体感や工事関係者のモチベーションアップ、地域の方々との交流や人と人を近づける話題として付加価値を生む効果を感じたところである。

今回は、お絵描きを利用した広報ということであったが、広報に限らず、新たな行動を起こそうとする際には、発生する課題の解決をとおして、本来の目的達成とプラス付加価値が得られるのではないかと思います。これからも何事にもチャレンジをしていきたいと思ったところです。

みなさんもそのような気持ちで物事に取り組んではみては如何でしょうか。